平成２９年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471900678	事業の開始年月日	平成10年1月1日
		指定年月日	平成12年3月1日
法人名	有限会社　ライフサポートいずみ		
事業所名	グループホーム　いずみ		
所在地	（２３８－００３２） 神奈川県横須賀市平作８－２０－２０		
サービス種別 定員等	□　小規模多機能型居宅介護	登録定員　　名 通い定員　　名 宿泊定員　　名	
	■　認知症対応型共同生活介護	定員　計　18 名 ユニット数　2 ユニット	
自己評価作成日	Ｈ２９年１２月	評価結果 市町村受理日	平成30年5月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・理念にあげているように利用者が自由にあるがまま過ごせるように、バリデーション法をケアの基本とし利用者の不安、葛藤に真摯に向き合い傾聴、共感し受け止め安心して暮らせるよう支援している。・認知症のプロになるを基本に職員を育成している。・看取りは利用者の日々の暮らしの延長と考え心穏やかに安楽に過ごせるよう寄り添い、家族間の戸惑い不安にも寄り添い共に大切な時間となりその人から学びを得ている。家族はその後も運営推進委員としてまた、ボランティア訪問でホームを支援してくれている。・地域との交流では地元町内会を活用した平作カフェは４年を迎え、また保育園児が季節ごとの訪問し、中学校の吹奏楽部の訪問演奏で交流がある。実習生の受け入れでは県立保健大学の作業療法士、認知症ケアの研修生、中学生の職業体験学習を受け入れている。・運営推進会議委員、家族の協力を得て、本年の敬老会は町内会館を借り「ありがとうコンサート」開催し外出。チャリティバザー開催も８回目、餅つきは４回目となり年ごとに町内の方々の協力、参加が増え楽しんでいただき交流が深まっている。家族とも親睦が深まり家族間でも馴染みの関係ができている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人　かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23　日土地山下町ビル　9階		
訪問調査日	平成30年2月21日	評価機関 評価決定日	平成30年5月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

この事業所は、ＪＲ横須賀線衣笠駅から徒歩で10分ほどの、幹線道路からほど近い小川に沿ったところに建てられている。法人は2度の移転で現在の場所に移った。現在、横須賀市内でグループホームと小規模多機能型居宅介護事業所を運営している。

【利用者に寄り添うケア】

法人の開設者である施設長は、介護保険以前から看護師として認知症の人が自分らしく人生が終えられる場づくりを目指してきた。当初より看取りを視野に入れた介護を行い、1日1日がその人らしく生活できるよう、認知症について研修し、実践してきた。傾聴やバリデーションなどを活用し、利用者の心の声を聴くべく、職員にも指導している。その人の「あるがままを守ります」という言葉には、様々な姿に寄り添おうという強い決意が表れている。

【地域と共に歩む事業所】

事業所の取り組みは地域からも支持を受け、認知症ケアのスペシャリストとして広く認知されている。町内会館を借り受けて開催している、誰もが集える「平作カフェ」も5年目を迎える。事業所にはボランティアの来訪も多く、人の出入りが利用者の生活を豊かなものとしている。バザーやカフェは地域の応援を得て開催されているほか、感謝を込めて「ありがとうコンサート」を開催し利用者、家族と共に地元住民を招待した。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
Ⅰ　理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
Ⅴ　アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームいずみ
ユニット名	

Ⅴ　アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）	○	1，ほぼ全ての利用者の
			2，利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1，毎日ある
			2，数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 （参考項目：36,37）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
		○	3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）	○	1，ほぼ全ての家族と
			2，家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1，ほぼ毎日のように
		○	2，数日に1回程度ある
			3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	1，大いに増えている
			2，少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1，ほぼ全ての職員が
			2，職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1，ほぼ全ての家族等が
			2，家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念に基づきスタッフが毎月の介護目標を立て朝の申し送りで唱和し、意味を深め一日の業務に生かしている。ホームの考えとし1・2階共通の目標にしている。新人スタッフにも理念を基本に指導している。カンファンスで議論の際にも理念にもどりケアを検討している。	職員、利用者、利用者家族に意見を募り事業所独自の理念を作成し直した。「今月の目標」「ケアの基本的態度」と合わせて、毎朝申し送り時に唱和している。職員は利用者の「あるがままを守る」ことに徹しており、ケアに行き詰った時には理念に立ち返るようにしている。毎年理念の学習も行う。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の会合、防災訓練に参加、またホームで行われるバザーや餅つき開催を町内の掲示版でお知らせし、お手伝いや不用品の協力がある。地域へのゴミ収集、資源回収時に挨拶、清掃でも交流が深まっている。	町内会に加入し町内運動会に利用者と共に参加する。保育園児の来訪があり交流している。毎月町内会館を借りてカフェを開催し近隣住民と交流を図っている。事業所のバザーや餅つき大会、コンサートなど近隣の方との交流を深めている。中学のブラスバンドをはじめ多くのボランティアが出入りしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望、見学者の相談、対応アドバイスをしている。施設長は大学、看護学校、県の実践者研修の講師をし認知症介護を指導している。4年前からの、月1回の平作カフェも定着し介護予防研修、認知症サポーター育成講座も行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの事業報告、敬老会、チャリティーバザー、餅つき会に参加、協力いただくなか話し合いや終了後の反省で意見をいただき生かしている。	年に6回開催し、町内会役員、民生委員、大学関係者、利用者家族、元利用者家族などが参加している。行政や地域包括支援センター職員は年に数回出席している。事業報告やイベントの打ち合わせなどを行っている。委員からコンサートに近隣の方を招待してはどうかという意見があり、今年度は町内会館を借りて大規模に行った。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員の参加があり毎回、報告書を提出。他書類等の相談、ご指導を戴いている。施設長は実践者研修、県ＧＨ研修、他施設研修で講師をしている。	施設長は介護保険開始前から行政との交流があり、行政主催の各種研修や教室の講師依頼がある。社会福祉協議会からの講師依頼も多い。職員は毎年保健所の「感染症予防」の講習に参加している。AEDを設置し子供110番の家を受託している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠は夜勤帯のみとし常にオープンにしている。面会時間も自由である。車椅子は移動の手段と考え、その都度、椅子に移り過ごして戴いている。認知症薬も常に検討し、適切な量が投与されるよう、医師に相談しチエックリストにて評価、報告している。	身体的拘束だけでなく、薬や言葉の拘束についても職員はよく理解している。重度の方も日中は車いすから椅子に移乗して過ごしている。玄関、ユニットも日中は開錠しており、利用者は好きな所に好きな時間に行ける。また出かけたい利用者には散歩だけでなく、出来る限り職員が同行して出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修はホーム内、外部研修参加と必須にしており、個々のケア検討や朝のミニカンファレンス振り返りで意識づけしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受け報告会を持ちその都度、伝達学習している。ホーム内でも研修。困難事例の方を通しその人の尊厳や希望、権利を考え、あるがまま過ごせように検討をしている。現在、１名の方が成年後見人制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時家族に書面で説明し承諾をえている。面会時、必要に応じて随時、伺い説明をしている。身体的変化による治療時など戸惑いに対応している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満、苦情の窓口を明記し家族が見てわかるように掲示している。毎月のお便りを送り、面会時や定期的なケアプランの説明時に心配なことや家族の思いを伺っている。身体的、精神的の変化によって必要な方から、家族面談している。玄関に「ご意見箱」を設置している。	家族の交流会を年に2回行っている。現在の利用者家族からの意見は少ないが、退去された元家族からは様々な運営に関するご意見があり、ボランティア等でも協力してもらっている。交流会も夜の方が集まりやすいという意見が出て、検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、管理者会議やカンファレンスで経営状況、処遇改善費について話し合い検討している。年度の介護目標を検討、個人の研修希望など意見を述べる場を持ち尊重、反映させている。行事の開催も自由に内容を考え、開催しチーム間でも互いに協力をしている。	毎月会議を行っており、前半は合同で研修等、後半は各ユニットでカンファレンスなどとなっている。職員は常日頃から意見を出し合い、より良い事業所にしようとアイデアをフロアリーダーに提案し、自ら実践している。利用者の作った作品に手を加え実際に使えるようにしたりと、随所に職員のアイデアが光る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算Ｉを算定し客観的な配布を実施し職員の同意を得ている。正月手当、健康診査費用、予防注射もホームが支給。勤続表彰、資格取得時には奨励金がある。職員の学童児がホームに帰宅し親と共にホームで過ごし親子が安心して働けように支援している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新採用者はバリデーションをはじめ、新人研修マニュアルがある。２８年からは自発性を高めるため個人研修ファイルを作っており、本年は個人学習の発表を行い互いに学びを深め触発の場となった。毎月の研修ではグループワークで発言の機会を作っている。また、外部講師を依頼し施設内で開催、近隣の施設にも開放している。職員に適した外部研修を勧めている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市ＧＨの研修は定期的にあり地域エリア会議もある。事業経営者の会議もあり、互いに話し合い団結している。スタッフ交流研修を行い意見交換から学びを得ている。施設内研修に他施設のスタッフも受け入れ質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の家庭訪問し、また来訪していただき馴染みの関係を作っている。「自由にあるがまま」過ごせるように不安に寄り添い、希望、意志確認をしている。概ね、入居１ヵ月ごろに家族面談し、入居後の変化とそれに応じた対応など話し合い、ケアプラン作成に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 　サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時、家庭訪問時など、家族の苦しみ、不安や葛藤を傾聴、受け止めている。ホームの行事などに参加していただいたり、面会時に不安や希望を聴いている。家族の申し出や必要と感じた時にはその都度、面談し思いを伺い意見交換をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人、家族の意向をよく聴き、何を求めるているか見極め話し合っている。定期ケアプラン説明時にも面談している。入居時の家族の思い戸惑いを真摯に受け止めている。面会時に意識して面談をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として、毅然として生きる姿勢、人への配慮など教えられ事は多く学んでいる。利用者の笑顔、姿、励ましの言葉は尊敬と意欲の向上に繋がっている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事にはご家族の協力を得て開催、その中、子供さんたち、孫、ひ孫家族も参加し家族の時間を過ごしている。誕生日会は家族のご都合に合わせ、準備し家族と大切な時間を過ごしてもらっている。ターミナル時は子供全員に集まっていただき細かに話し合いの時間を持ち、悔いのない日々を支援している。私たちもその中、学びを得ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の希望、了解で友人や知人の面会がある。利用者個人の宗教で教会の方もみえ祭礼も行っている。行きつけの美容院に行かれたり、定期的にカラオケ会に出かける利用者もいる。	高校の同窓会の友人や、教会関係の知人の来訪も定期的にある。近所のカラオケルームでの友人たちの集まりに参加して、楽しいひと時を過ごす利用者もいる。誕生日会は居室でご家族とゆっくり過ごす時間に充てている。音楽療法のボランティアの訪問があり、懐かしい歌などで心身のリラクゼーションをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しい利用者が馴染み易いようスタッフが介入、寄り添っている。壁ポスター、家事作業など本人の持ってる力に合わせ共同作業し達成感を共有している。利用者間の不調和音には当たり前の姿と受け止め、また互いに受け止める力を見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの看取りから、3名の家族が毎週、買い物、設備点検修理、紙芝居にきてくださり、月１回　茶道や絵画の先生がボランティアで来ている。運営推進委員として4名。　餅つき会では中心的立場で活躍してくださり互いに支援している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の好きなこと興味のあることを把握し日々のアクテビティに取り入れ無理じいせずその日の様子で進め、活躍の場を作っている。台所作業、縫い物、編み物、茶道、習字、絵画、音楽療法などにも自然に馴染めるよう声かけ、参加し楽しまれている。本年は個人の思い、希望の把握に受け持ち制を取り入れている。	職員はバリデーションを駆使し、本人の思いの把握に日々努めている。コミュニケーションがより良くとれるよう、個々や集団の場で得られる情報や生活歴などを分析して、本人の思いを探っている。顔色や表情を観察し、あらゆる場面で本人の思いに沿えるよう支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントシート、医療情報、他施設のサマリー、利用者、家族と面談し全体像の把握に努めている。馴染みの小物、家具を持参していただき生活習慣もそのまま守り環境の変化を最小限度にと考えケアを検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の言動から何を望み、何をしたいのかを察知しその意味を探るよう努力している。思いを傾聴し取り入れている。日々の介護記録で情報を共有し質の向上に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	症状や状況の変化に応じて、朝のショートカンファレンス検討したり、毎月のカンファレンスで事例検討しプランを変更している。定期的には6ケ月ごとで評価を行い、スタッフの確認サインでケアを統一している。	事業所独自の介護計画書を作成しており、職員は計画に沿って支援を行っている。今年から「受け持ち制」を導入し、利用者に向き合う時間を長くとることにした。観察・行動・評価（DAR）のフォーカス記録法を用い6か月ごとに評価を行い、支援方法について討議している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はフォーカス記録法を用いて（Ｄ・Ａ・Ｒ）で出来事の判断、ケアの評価、課題、ケアの必要性が書かれ情報収集をしやすくしケアプランにいかしている。また、ケアプランに沿って記録するようにしている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の依頼で病院受診など同行や代行している。個別に必要な生活用品、代行購入している。デイの利用者の担当者会議の会場提供。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩、花見は町内の公園に行き地域の方と交流し、個人の不足した日用品やおやつの購入にコンビニストアを利用している。定期的な保育所園児の訪問、中学生吹奏クラブの訪問があり定期化している。ボランティアに紙芝居訪問、習字、絵画教室、音楽療法、茶道がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム提携訪問診療医（内科、精神科、歯科）あり必要に応じ地域の病院に受診している。また、個々にかかりつけ医、歯科、整形、眼科など家族と受診している。	利用者は協力医の往診を受けているが、希望があれば従前のかかりつけ医を利用できる。専門医などは家族もしくは職員が同行し受診しており、受診結果は「受診記録」で共有している。24時間医療連携体制があり、速やかに看護師が駆けつけ対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師がおり２４時間スタッフから報告、相談の体制ができている。２４時間、休日を問わず、必要に応じて状況を把握し訪問医に報告、相談し指示により対応必要時、受診している。家族連絡も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から主治医に面談し、家族の意向をふまえながら早期退院に向け相談している。入院中は訪問し馴染みの関係を保ち環境の変化による認知症症状の進行予防に努めている。外科系の場合、入院期間は非常に短縮している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「終末期の希望書」「安らかな看取りのために」など一連の指針があり、本人、家族を中心に捉えたターミナルケアを実践している。容態の変化時から家族と面談しながら家族とスタッフで協力し思いのまま過ごせるよう、本人・家族の時間を大切にしている。	パンフレットにも明記している通り、「認知症であっても最後までその人らしく」見送りたいとの決意で事業所を開設した。入所間もない時から看取り方法を利用者本人と話し合い確認している。看取り期に入ると医師や家族と十分に話し合い、職員とも協議し「その人らしい最期」を看取っている。見送りは利用者と共に「お別れの会」を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応はホーム内研修で学習したり急変、転倒利用者の発生時に事例検討して学習している。朝のカンファレンスでもその都度、予測されるリスクを話し合っている。ヒヤリ・ハットも毎月書き出し、検討予防に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回行い防災グッズを点検している。運営推進会議、家族に報告。町内会の防災訓練にも参加している。毎月11日は避難誘導法を目視訓練でスタッフ全員に身につけている。防災設備点検も定期的に受けている。本年は消防署に派遣依頼し家族参加で防災訓練行い指導を受け話しあった。	年2回防災訓練を行うほか、毎月11日に、夜間の職員体制下での避難手順の確認を行っている。9月に消防署の立ち合いの下、利用者家族6名と共に防火訓練を行い、利用者の誘導の大変さを体験してもらった。3月11日に防災訓練を実施する予定である。米や缶詰などの食料の他、発電機やカセットコンロなどの備蓄をしている。	近隣住民の協力を得るための働きかけや、防災備蓄のリスト化による適切な管理など、さらなる取り組みを期待します。
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	県の指針に基づき当ホームの「個人情報保護法方針」がありプライバシーや個人の尊厳保持に努めている。言葉は崩さず敬語をモットーとし、すべてにおいて本人の意思、意向を一番に考えケアしている。個人記録ファイルはケース箱に保管、事務所の書棚ガラスは保護フィルムで利用者のプライバシーを保護している。	接遇の研修を毎年行っている。利用者にだけでなく職員同士でも敬語を使うよう指導しており、お互い尊敬の念をもって接している。脱衣所に折り畳み式の衝立を用意し、プライバシーに留意している。個人記録を含む書類を保管している鍵付きのガラス張りの書庫は、フィルムを貼り外から見えないようにした。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の力を信じ、生かし自己決定し出来ることを大切に「待つこと」の大切さを合意している。「自由にあるがまま過ごしたい」を基に起床、食事、入浴、アクテビィティ参加、食事の好み、食事時間、テイタイム時の飲み物選びと日々の生活すべてにと考えている。（利用者が主役）		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、その日のリーダーは、利用者の心身の変化を観察し、「本人に添うこと」を一番に業務を調整している。（まず、話を良く聞く、希望に添うなど）レクリエーション内容、散歩など希望を聞き取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ケ月ごとに美容師の訪問がある。また家族と共に行きつけ美容院に行っている。衣服も季節に応じたものを用意していただきまた傷んだものは連絡して用意してもらっている。汚染時の速やかな交換や毎日の更衣時には服を選択できるよう伺っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の持ってる力を生かせるよう、盛り付け、食器洗いや拭き、野菜の皮むきやきざみなど、一人ひとりの力を生かせるよう活躍の場を作っている。メニューは希望で変更したり、行事の時は季節を感じ喜んでいただけるメニューにしている。	利用者の能力に応じて下ごしらえや盛り付け、テーブル拭き、下膳などを手伝ってもらっている。メニューは管理者が過去のデータの中も参考にしながら作成しているが、利用者の希望があれば変更することもある。職員は、利用者と同じ食事を会話しながら共に摂っている。食の進まない利用者には無理強いせず時間をかけて見守っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食、把握し減少時には好きなもので補食を随時行っている。水分補給も特に夏場は細めに水分を摂れるように勧め、梅干しを毎朝つけ熱中症予防に努めている。また、食事状況で医師と相談し栄養補強剤、ムース食と栄養保持に留意している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを励行している。その人の自立度に合わせ見守り、介助している。提携の訪問歯科があり、緊急時に対応してくれている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その人の排泄サイン、間隔を把握し誘導し失禁減少に努め気持ち良い排泄を実践している。昼間はオムツを外すなどオムツの使用は最小限度にしている。	トイレは各ユニット2か所ある。うち1つは扉が2つあって、片方は脱衣所に繋がっている。トイレの中には多くの手すりが設置されている。重度の利用者でも2人介助でトイレでの排泄を支援している。職員はサインを逃さず「ちょっとあちらへ」とさりげない誘導に徹している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトをメニューを取り入れ。便秘時には冷水、牛乳、運動、腹部マッサージなど試みて自然排便に努め必要時、医師と相談し、その人に適した緩下剤で調整している。排便確認を行い便秘による苦痛、イレウス予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一応、曜日は決まっているが本人の意思、希望を優先している。汚染時などは随時、入浴で清潔保持としている。季節でゆず湯なども楽しんでいる。	週に2～3回の入浴ができるよう支援している。入浴を好まない方については、原因を探り、無理のない誘導方法を全員で話し合い、楽しんで入れるよう支援している。菖蒲湯やゆず湯などの行事湯は利用者も楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時、馴染みのベット、掛け布団、毛布、枕など持参し気持ち良い睡眠が取れるようにしている。適温、適湿が保たれるように室温、湿度を乾湿計で管理、注意している。自立度に応じて見守り、管理している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬剤の効用書はいつでも確認できるようにしており、変更時必要に応じてチエック表で効果、副作用を観察し医師に報告、相談している。身体の機能状態で医師と相談し服薬法を考えている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から得意なもの、好きなカラオケ、刺子縫い、編み物、ＤＶＤ観賞で過ごし、アクティビティでは茶道、水彩画、音楽療法などで日々の生活に喜び、楽しみが持てるようにしてる。また、フラダンス、二胡、大正琴などのボランティア訪問もある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	突然の散歩や外出に同行し、近くのコンビニストアーやスーパーに買い物。外泊、自宅外出で食事。友達とのカラオケ会。本年は敬老会を町内会館にてコンサートを開催、家族と共に外出し楽しむ機会を持った。	周囲は幹線道路沿いではあるが広い歩道や川沿いには散歩道などもあり、散歩に恵まれた環境にある。利用者は近所のコンビニエンスストアにおやつを買いに行ったり、公園までの散歩を楽しんでいる。外出の機会が減ったこともあり、今年の敬老会は近所の町内会館を借りコンサートを行い、外出の機会とした。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自立度の高い利用者は所持されている。買い物や散歩時に小遣いとして使用されている。バザーでも買い物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された時は自由にかけている。携帯電話を持っている方もいる。面会に来れない家族、知人と電話や手紙でつながっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	Ｄルーム、廊下に季節に応じたポスター作製を利用者と行い季節を楽しめるようにしている。花も絶やさないようにしている。Ｄルームの日差しや湿度、温度、テレビの音量など利用者の好みや様子で調節している。また、個々の温度感覚にも応じ座席、空調調整をしている。	車いす2台がすれ違える広い廊下があり、木をふんだんに使用した落ち着いた造りになっている。廊下や居間には利用者の作品や落ち着いた絵画などが飾ってある。各ユニットの玄関には季節感を出すために生花を活けている。年に1回のワックスがけを業者が行う。組み合わせて配置を自由に変えられるテーブルを特注し、座席の配置を工夫している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者のＡＤＬの変化に応じてテーブルの配置、座席を検討し日々の利用者の様子、希望で随時、話し合い居心地良く過ごせるようにしている。ソファー空間もあり、居室で自由にすごせることも大切と思っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具は本人が自宅で使用していた物を持参、時計、鏡台、飾り物、書籍なども持参し居心地良く落ち着けるようにしている。湯たんぽ、電気毛布持参の利用者もいる。	居室はベッドやカーテン、照明器具が備え付けられている。利用者は使い慣れたタンスや机、丸椅子、テレビ、ラジオなどを持ち込んでいる。湯たんぽや電気毛布を好む利用者もいる。全室窓があり明るい。自室で習字を練習する利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札、トイレの名札を見やすいように位置や字の大きさ、「便所」と分かりやすい工夫している。家庭の延長でその人に力に合わせて家事作業を一緒に行っている。ＡＤＬ表やＩＣＦの視点から「できること」を大切に維持、向上できるようにしている。		

目　標　達　成　計　画

事業所名　グループホームいずみ

作成日　Ｈ３０年　４月　１２　日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　　標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	火災訓練に運営推進委員、家族の参加はある。ホームは地域の防災訓練に毎年、参加しているが、ホームの避難訓練には近隣者に参加協力を得てない。	地域との協力体制を築いていく	３０年1回目の火災避難訓練時に近隣者に協力をお願し実施する。	Ｈ３０年４月～３１年３月
2		火災、地震、水害時の避難マニュアルはあるが、書式が計画書になってない。	災害時の避難誘導マニュアルを検討、見直し計画書を作成する。	火災、地震、水害時の避難計画書の作成する。スタッフへの手順の熟知教育。災害備蓄物品リストを作る。	Ｈ３０年４月～３１年３月
3					
4					
5					

注）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注）項目数が足りない場合は、行を追加すること。